

HEART to HEART

tea time

11~12月このとりの外來の成績

編集後記



いました。神奈川に住んでいる私達にとって通院するだけでもとても勇気が必要でしなかつたと思っています。

私達は1993年1月30日、主人25歳しました。まもなく12回目の結婚記念日をす。この間、子宝に恵まれることはありません3年間は2人で居ようと話し、そうして「ぎ子供を」と考えたときにはなかなか結果初めて不妊治療の門をたたいて以来3度となった諏訪マタニティークリニックでやができました。初めて診察を受けたときを最後の不妊治療の場となるよう、協力して下さったスタッフの皆様の言葉を、今で

初めて通った病院は主人の仕事の都合で市のTクリニックでした。この病院はA県ナンバー1と言われていて、総合病院からの紹介わざわざ東京から飛行機で通う人もいと病院でした。しかし、結果が出る前に転院病院を紹介して頂きました。この病院にはられる先生もおり、主人ともども通っていか結果が出ませんでした。この病院への通ますが、期間が長くなるにつれ、現状や洋見通しを全く説明してくれず、いたずらにだけでした。次第に不信感が募り、けんかでT大学病院に転院しました。ここでは色々ただいたのですが、結局思うようにはいきらためて考えると、大学病院は機械的な流いないのかと悲しい思いにかられます。

約1年前、主人が、「通院が大変かもしれないタニティークリニックに行ってみないか」と「やりたいようにやってみる。」「そんなったらどうするのだ。」周囲の反応は様々も主人も新聞報道等で様々な成果をあげたので、「この病院に行ってみよう」といしかし主人と良く話してみると「同じ行っちでも、お互い微妙な想いがありました。通った病院で治療を受ければ、きっと良い結

ばらく何もせずしていたのですが、年齢も30才近くなりやっばりそろそろ一人は欲しいという気持ちで今度は総合病院へ行く事にしました。そこではいろいろな検査をして左の卵管が詰まっている事、右の卵巣がチョコレート嚢腫という事がわかりました。当時の私は何の知識もなくその状況ではもう妊娠は無理なのかと思っただけでしたが、担当医からは大丈夫ですよと言われクロミッドを飲みながらのタイミング療法をしました。しかし、その治療も1年が2年になり、薬も一錠が二錠になってそのうちに生理痛がひどくなってきたりして不安が募り別の総合病院へ移ってしまいました。

今度の病院ではチョコレート嚢腫が大きくなってきているので手術をした方がいいと言われ、手術に際しては半年間生理を止めなければならない現実には悩みはしましたが、このままでは前に進む事もできないと思いそこで手術を受けました。そして、"よし、今度こそは"という強い願いを持っていたものの、術後3、4か月経つとまたチョコレート嚢腫が出来始めているとの事。私はものすごく焦ってしまいました。そんな時ある知人からこんな病院もあるよと二つの病院を紹介されました。一つは他県、もう一つは諏訪マタでした。お金の事、仕事の事、通院の事etc考えた結果、以前その県に居た事もあったので他県の病院を選びました。

そこは今までになく不妊に力を入れている病院だったので今度の今度こそと期待がありました。そこで初めてAIHをしました。AIHは2回しましたが結果が出ず、体外受精に切り替える事になりました。体外受精も1回で結果が出るとは限らないとは思いますが幾分の期待をして望みました。卵の状態もいいと言われたので心からその成功を祈ったのですが判定日を待たずして生理が来てしまい、あまりのショックに毎日泣いてばかりいました。挑戦して3回目、そのスタッフの方から"このまま駄目という事はないけれども、もしかしたら他の病院が合う場合もあるかもしれない"という話があり、もう本当にこれで行く所は諏訪マタしかないんだと思いました。

初めて諏訪マタを訪れた時は、入り口は同じでも診察は別になっている事で、妊婦さんや赤ちゃんが目に入るのが少ない配慮にほっとしました。体外受精の説明会でも一連の流れは以前の病院とさほどの変わりはないのですが、所々にここの技術レベルの高さを伺える内容を知ることができました。また他の施設との大きな違いは相談室の存在です。実際ここでの治療に入り、



<Yさん>

一回目のタイミング、二回目、三回目・・・と生理が来る度に布団の中で泣いた。不妊の原因もなく、何の変化もなく次第に病院から足が遠のいてしまった

私達は結婚6年目。お互い大きな病気もせず子供も結婚すればすぐに出来るものだと思っていました。しかし、2年、3年と時間だけが過ぎていき気持ちだけが焦り病院へ行くことになりました。初めに行った総合病院は、産科・婦人科の診察室が同じだったので、待合室に座っている時間、気持ち的に駄目でした。周りを見回して「お腹の大きな人達が羨ましい」「ここに居ることが恥しい」そんな事もあり一回で行くの辞めてしまいました。しかし周りからの子供はまだなの?という言葉が幾度となく聞き次第に悩むようになってしまいました。子供の事ばかり毎日考えるようになっていた頃、友達から新しく出来た病院があると聞き通院してみる事にしました。そこで初めて色々な検査をしました。検査は夫の協力もなくはなりません。しかし女性でも産婦人科となると行きづらい感じがあったのですが男性となるともっと抵抗があるようでした。何度か病院への送り迎えはしてくれましたが一緒に診察室の中へは入って来ませんでした。私も強要はしませんでした。

全ての検査が終わり二人とも不妊と思われる原因はないと言われタイミング療法での治療が始まりました。一回目のタイミング、二回目、三回目・・・と生理が来る度に布団の中で泣きました。不妊の原因もなく、何の変化もなく・・・次第に病院から足が遠のいてしまいました。

そんな時でした。同じ会社に勤めている方が結婚11年目で奥さんが待望の妊娠をしたと聞いたのです。その御主人とは以前から同じ悩みを持つ者同士として、励まし合ったり相談などしていました。なので妊娠したと聞いた時は自分の事のように嬉しかったです。その奥さんが諏訪マタに通院していると聞いたのです。私にもまだ望みがあるのかなと思ひ、今度こそ最後の病院にしようと思ひ諏訪マタにお世話になる事にしました。

まだ数回しか通院していませんが、今までの病院と違う所。それは・・・検査の内容、治療の進め方が本(このとりの贈り物)で確認できる事。説明会に夫と参加する事で、同じ悩みを持っている夫婦が大勢いるという事がわかった事。イコール初めて



ちょっとお茶を
日頃皆さんの
やきをのせてい

✿ Y・Yさん ✿

結婚11年目を迎えた夫婦です。諏訪マタになって2年が経ちます。検査結果はどちらにタイミング法を行っていました。前の病院だったのでなかなか上手いかず、とうとう通院するのを辞めてしまいました。生活を送っていたのですが、3年が経ちやば夫婦で話し合い諏訪マタニティーに通う事に最初吉川先生の不妊治療の説明会を二人院ではこのような事はなかったし、人工授けなかったなあと考えながら聞いていました。なら頑張れる"と思ひました。そして1年が経てるこの頃、私の中でこのままタイミング法ステップアップする方がいいのかと考えがよくなりました。

その時こうのとり相談室がまるで私を手うに見え初めてその部屋へ入ってみました。で部屋に入る事ができるようなのですが、てしまうと次は自分のタイミングで入るよの日は本当に手招きされたみたいに思ひました。

初めて入ったその場所はとても暖かで居心そして私は今までの治療での思いや今現在の迷いを涙を流しながら話してました。座って聞いていてくれたのです。"あ～、やかってくれる人が居た"と思ひましたね。そです。原因がなくタイミング法をやってきステップにいけないのは自分の頭の何処かからいずれば・・・と思う気持ちがあった事で30も過ぎているのだからと焦る気持ちがよによって心の整理がつき、"体外受精にチャだけど一回こうのとり相談室へ一緒に行っ言う事ができました。